

第二章 悲劇の日「9月11日」

第一節 長い八月

迫り来るアルカイダの9/11攻撃をかすかに捉え、必死に追い始めた人々がいた。その人々にとって、また、追われる側のアルカエダにとって、2001年8月は長い八月であった。

オクラホマ市のモーテル経営者によれば、2001年8月1日にハイジャッカーであるアタとマルワン・アルシェヒはこのモーテルに到着した。ハイジャッカーのハニ・ハンジュールはエル・サルバドルからの不法入国者ルイス・マルチネス・フロレスの助けを借りて、バージニア州の自動車登録事務所で居住者登録をした。そして、この登録を利用してアブドウラジズ・アロマリ、アハメド・アルガムディ、マジエド・モケド、サレム・アルハジム等のバージニア州のIDカードを入手した。ⁱ

一方、ブッシュ大統領は8月4日からテキサス州クロフォードで月末まで夏休みを過ごそうとしていた。8月6日に大統領はクロフォードの牧場で諜報機関から、ビン・ラディンが商用機をハイジャックしようとしているという秘密報告について説明を受けた。ⁱⁱ

この報告の題は「オサマ・ビン・ラディンは米国内で攻撃することを決定」となっていて、テロリストの攻撃が米国内で行なわれるという点に焦点を絞っていた。その内容は公表されていないが、9/11事件の下院聴聞会のなかで明らかになったことは、この報告が次のような内容を含んでいたことである。

- A) ビン・ラディンは一九九七年以来米国内での攻撃を考えていた。
- B) 米国の市民を含むアルカエダのメンバーは米国に居住するか、数年に渡って米国に渡航を繰り返し、グループ内での支援構造を保ってきた。
- C) アハメド・レサムの逮捕について、および一九九八年の大使館爆破事件に関する議論。
- D) ビン・ラディンが米国に捕らわれているシェイク・アブドウル・ラーマンを取り返すために航空機をハイジャックしようとしたという1998年に得られた余り裏づけの無い情報について。
- E) 2001年5月にアルカエダのメンバーが、高性能爆薬を持ってカナダから米国へ潜入しようとした事実について。
- F) ハイジャックあるいはその他の攻撃を準備する場合に符合する活動パターンに関するFBIの判断について。

G) ビン・ラディンに関連する進行中の捜査の数について。

この報告書の存在は論争の種になるのを恐れ、2002年5月まで秘密にされていた。

8月13～15日にはミネアポリスの飛行学校がザカリアス・ムサウイをテロリストではないかと疑いFBIに通報した。ムサウイは八千三百ドルを払ってボーイング747モデル400の飛行シミュレータの訓練を受けたが、飛行学校側は一日の訓練が終わってからすぐに彼をテロリストではないかと疑いだした。なぜなら、どれだけの燃料を747-400に積めるか、また、もし飛行機が何かに衝突したらどんな損害を引き起こすか、という質問を彼が始めたからである。飛行学校の教官が疑いを持ったのは、高度な訓練をうけるには前歴の訓練が不足ししかもパイロット免許も持っていない、などの理由からだった。

しかし、FBI係官はあまり関心を示さなかった。飛行学校の職員が心配するので、FBIはザカリアス・ムサウイを移民法違反によりミネソタで逮捕した。FBIが所持品を調べるとノート型コンピューター、ナイフ二本、戦闘用手袋、薄い防護着込みを持ち、明らかに戦闘訓練を受けた人間のような感じだった。FBIは尋問結果を上層部へ送ったが、反応はなかった。8月22日にフランス当局は、米国の要請に応じてザカリアス・ムサウイの情報をFBIに渡した。それによればムサウイはイスラム過激派に属し、チェチェンで戦う要員を募集していた。彼の名前はフランスの監視リストに載せられていたため、彼がフランスに入国することはできなかった。FBIは詳細な情報をフランスから得たにも関わらず、ムサウイのコンピューターの中身を調べる十分な理由にはならない、と判断した。

FBIには9/11事件に関連し、最も悲劇的な運命をたどった男がいた。FBIで地位争いに巻き込まれていたテロリスト対策専任のジョン・オニールは、8月22日にFBIを辞職した。彼は一年前に書類鞆を置き忘れたがすぐに戻り中身も無事だった事件を誰かが新聞に漏洩したり、アルカエダに対する捜査を度々妨害されたりしたこととうんざりしていた。彼の最後の仕事はFBIがイエーメンに戻って、米国艦船コールに対する捜査を再開する命令書に署名をすることだった。FBIのイエーメンにおける活動をしばしば妨げてきたバーバラ・ボーディンはイエーメン駐在大使の任を解かれ帰国するところであった。この事実は多少彼の慰めになったかもしれない。しかし、オニールはハイジャッカーのナワフ・アルハズミとカリド・アルミダールがテロ行動に送り出されたというCIAの警告もケン・ウィリアムが書いたミネソタ飛行学校の報告も、ザカリアス・ムサウイの逮捕についても知らされなかった。8月23日にジョン・オニールは世界貿易センターの警備主任の職に就き、9月10日に北タワー三四階の新しいオフィスへ入った。翌日彼はアルカエダの攻撃によって殺されたのである。ⁱⁱⁱ

8月23日、CIAはテロ対策センターに配備されていたFBI捜査官の要請により、国務省、移民局、税関およびFBIに対し、オサマ・ビン・ラディンに関連した人物としてナワフ・アルハズミとカリド・アルミダールをテロリストの監視リストに加えるよう打電した。しかし、彼らの居所を突き止めるための徹底的な捜査はされなかった。

フランス当局から送られたザカリアス・ムサウイに関する情報から、ミネソタのFBI捜査官達は彼が「飛行機を使った何らかの計画」をしていると確信した。捜査官たちは何とか彼のノートPCの中身を調べたいと考えた。そこで「外国諜報員捜査法（FISA）」の適用を申請した。FISAが適用されれば盗聴も許されるし、その他の反憲法的な捜査も許されるからだ。FISAの申請は過去20年間に1万件ほどあり、そのうち1件も却下されたものが無かった。

8月24日、FBI本部からザカリアス・モサウイに対する反応が無い事に失望したミネソタのFBIは、CIAのテロ対策センターで働くFBIの同僚にCIAの援助をもらえるよう働きかけた。CIAは当日直ちにモサウイに関する情報を送るよう、各支部と海外の基地に対し依頼メモを送付した。メモにはFBIがモサウイを、テロ攻撃を企んだ容疑で尋問していること、彼が飛行訓練を受けていたこと、そして、彼はヨーロッパから米国へ向かう航空機を使う大掛かりな攻撃に加担している可能性をもっている、と示唆していた。^{iv}

同日、ハイジャッカーのカリド・アルミダールとナワフ・アルハズミはクレジットカードを使って、オンラインで飛行機の切符を購入した。彼らの名前は当日テロリストの監視リストに載せられたが、それにも拘らず、この航空券購入は網に掛からなかった。なぜなら、監視リストは単に出入国だけに適用されたからである。

8月27日、FBIは国務省と移民局にたいし、最近ハイジャッカー監視リストに加えられたカリド・アルミダールとナワフ・アルハズミの旅券について調べるよう依頼した。アルミダールの旅券は六月に発行されその当日に取り消されていた。アルハズミの旅券はすでに期限切れとなっていた。

8月28日ニューヨークのFBI事務所に、アルミダールがまだ米国に居るかどうかの調査を始めるよう促すメモが送られた。ニューヨーク事務所はFBI本部に犯罪調査を始めるよう説得したが、直ちに却下された。その理由は「犯罪と諜報のあいだの壁」であると説明された。

同日、ミネソタFBIが申請していた「外国諜報員捜査法（FISA）」の適用が却下された。これは元の申請書ではチェチェン反乱者とアルカエダのつながりがあることを説明していたが、FBI本部の「急進的原理者組織」部門がチェチェンとのつながりの説明を申請書から省いてしまったためだった。従ってFBIの次席検事が根拠不十分として却下したのも無理はない。かくして、FISAはFBIから出ることなく葬り去られた。

8月29日、FBIはカリド・アルミダールが米国に2001年7月に入国したとき、ニューヨークのマリオット・ホテルに滞在すると言っていたことを掴んだ。直ちにニューヨークと近辺のマリオット・ホテルの搜索が開始され、9月5日までにはいずれにも該当者は居ないことが判明した。ロス・アンジェルスにFBIは9月11日にロス・アンジェルスのシェラトン・ホテルを搜索するよう指示された。アルミダールが一年半前に入国したとき、ロ

ス・アンジェルス・シェラトンに宿泊すると言っていたからである。しかし、捜査の結果何も発見できなかった。

9月4日、FBI本部は全米の諜報機関にザカリアス・ムサウイの捜査についての報告書を配布した。この報告にはムサウイは現在禁固状態にあることを述べてはいたが、彼が大きな犯行計画に加担している可能性がある事については述べていなかったし、テロリストの攻撃について対策を講じるとか、ハイジャックの可能性について分析をするとか、安全にたいする警告を出すとかの推奨をしていなかった。航空局（FAA）はこの警告を受けたが、各空港に安全警告を出さないことを決めた。

9月4日、ブッシュの閣僚はテロ対策の第二回目の会議を行なった。一月に行なわれた第一回目の会議でテロ対策主任のリチャード・クラークは世界中のアルカエダの作戦を巻き返す野心的な計画を提案していた。この計画は以来一層強化され、この会議で最終的に承認された。計画ではタリバンに抵抗を続けている唯一の勢力である北部同盟に相当の支援を与えることを提案していた。同時に米軍はアフガニスタンのテロリスト訓練基地に対する空からの攻撃と、特殊作戦を計画していた。この計画は9月11日にブッシュ大統領の署名を受ける事になっていた。

9月9日、北部同盟のアハメド・シャー・マスード将軍が、モロッコの記者を装った二人のアルカエダに暗殺された。この二人の記者はおよそ三週間前から北部同盟支配地区で将軍との面会を待っていた。この暗殺によりアルカエダとタリバンはアフガニスタン国内での勢力拡大の機会を得た。だが、その優位は長く続かなかった。米国にとっても、アフガニスタンにとっても運命の日となる9月11日が目前に迫っていたのである。

第二節 9月11日

2001年9月11日は誰にとっても忘れられない日となった。世界貿易センターのノースタワーが炎と煙を噴出し、それをニュース番組でテレビが放映している最中に、別の飛行機が吸い込まれるようにサウスタワーに突入した。そして、世界中の人々が驚き、あきれる間に、巨大な二つのビルがまるで砂細工を崩すように粉塵を巻き上げながら大地に沈んだのである。これほどの被害が出るとは、攻撃したアルカイダも予想していなかっただろう。満員の乗客を乗せた旅客機が武器として使われるとは、セキュリティ関係者にとっても予想外であった。

旅客機が武器として使われたときの効果を読者に想像していただくために、データを示しておく。

この日のアルカエダの攻撃は四機の民間航空機をハイジャックして行なわれた。

アメリカン航空 11 便	ボストン発	ノースタワーに突入
ユナイテッド航空 175 便	ボストン発	サウスタワーに突入

2001年9月11日についてアルカエダは行動を開始した。何も知らないビジネスマンはいつもおりに、出張のため飛行機に乗り込み、政治家や政府高官も日常と変わらぬ仕事を始めた。

この日、多くの人達は運命の分かれ目に立ちながら、それと気付かずにいた。そして不運だった人達は、死のメッセージを最愛の人達と交わさなければならなかった。空軍もCIAもなすすべを知らず、ブッシュ大統領はエアフォースワンで逃げ回らねばならなかった。この一日は次のように過ぎていった。

(以下の部分はデレク・ミッチェルが2001年にはじめたCenter of Cooperative Researchにフリーランスの研究者であるポール・トンプソンが寄稿したComplete 9/11 Timeline^vから抜粋し、当日の状況を再現したものである。)

(5時35分) モハメド・アタとアブドウラジズ・アロマリはメイン州ポートランド(注: 米国東海岸でカナダと国境を接している) からコルガン航空のボストンへ向う便に乗った。二人は別々の席を取り、黙って誰の注意も引かないようにしていた。

(6時) ブッシュ大統領はフロリダ州ロングボートキーのコロニービーチ&テニスリゾートで夜を過ごし、六時に起床した。

(6時30分) NORAD(北米防空司令部)のNEADS(ワシントン及びニューヨークをカバーするNORADの北西支部)に勤務するドーン・デスキンス少尉はその日の勤務について。NORADは半年毎に行なわれるビジラント・ガーディアンと呼ばれる1週間の訓練が始まるために、全米の要員が完全配置の状態にあった。指令系統は待機体制に入っていて、ハイジャックの第一報(訓練上の)を待っていた。NEADSのロバート・マール大尉によれば、「我々は戦闘機に多少多めに燃料を積んでいた。」

(7時45分) モハメド・アタとアブドウルアジズ・アロマリはボストン発ロス・アンジェルス行きアメリカン航空11便に乗り込んだ。モハメド・アタは11便と同じように滑走路で待機しているロス・アンジェルス行きユナイテッド航空175便のマルワン・アルシェヒを電話で呼び出し、彼が乗っていることを確かめた。11便は予定よりも14分遅れて7時59分に離陸した。

(8時13分) 離陸14分後に11便はハイジャックされた。離陸から15分あまりで、操縦士にとって突然の出来事だったらしく、緊急ボタンを押すことも出来なかった。操縦室内の出来事は8時21分まで室外に知られなかった。管制塔が11便に三万五千フィートまで上昇するよう指示した直後トランスポンダーの送信が止まった。トランスポンダーとは管制塔に飛行機の位置を知らせる電子機器で、この送信により管制塔のスクリーンに位置・高

度と便名が表示される。非常ボタンを押すと、その表示の脇に四桁の緊急ハイジャック・コードが現れるようになっている。

(8時14分) 11便のパイロットであるジョン・オゴノウスキーは返信ボタンを作動させ、ボストンの管制塔にコックピットの中の話しを聞けるようにした。この頃175便は16分遅れでボストン空港を離陸した。

(8時20分) 11便はIFF（敵味方識別信号）をオフにして、大きく進路を変更した。通常航空機は航路を二マイル以上外れると異常事態とみなされる。ボストン管制塔は11便がハイジャックされたと判断した。しかし、その後5分間は他の管制塔へ知らさず、NORADへ通知したのは20分後であった。

この頃、77便はワシントンのダレス国際空港を十分遅れで離陸した。

(8時21分) 11便では四人のハイジャック犯が立ち上がりビジネス・クラスにいたダニエル・レウインを刺した。彼はかつてイスラエルの極秘テロ対策部隊であるサイエレット・マトカルに所属していた。刺したのはサタム・アル・スクアミと推定される。

この頃に11便の客室乗務員ベティ・オンが座席に取り付けられたGTEエアフォンを使ってノースカロライナのアメリカーン航空予約係りであるヴァネッサ・ミンターを呼び出し機内の出来事を報告し始めた。ミンターはフォートワースのアメリカーン航空運航センターにいるマネージャー、クレイグ・マルキスに電話の内容を取り次ぎ始めた。しかし、電話を直接転送することは出来なかった。もう一人のスーパーバイザー、ニディア・ゴンザレスも8時27分頃から電話を聞き始めた。オンはおおよそ25分間話し続けた。この間他の客室乗務員が機内前部の出来事をリレーした。ハイジャッカーはファーストクラスの席から乗客を追い払うために何かをスプレーした事、乗客の一人が殺され、一人の乗務員が死に掛けていることを伝えた。

もう一人の客室乗務員アミー・スウィーニーはアメリカーン航空の地上マネージャーマイケル・ウッドワードに25分間電話で報告を続けた。彼女の最初の言葉は「聴いてください、注意深く私の言葉を聴いてください。私は11便に乗っています。この機はハイジャックされました。」であった。彼女はハイジャック犯が四人であることを告げ、彼らの座席番号を知らせた。

それによって、スタッフはハイジャック犯の名前、電話番号、住所、クレジット番号などを、11便が墜落する前に知ることが出来た。犯人の中にモハメド・アタとアブドウラジズ・アロマリがいることもわかった。スウィーニーはハイジャック犯が黄色い電線付きの爆弾を持っていると伝えた。

(8時30分) この時点では米国の指導者達はあちらこちらに散らばっていた。チェイニー副大統領はライス補佐官と共にホワイトハウスの事務室に居た。ラムズフェルト国防長官は国防省の執務室で議会の代表者と会議を行っていた。パウエル国務長官はペルーのリマにいた。テネットCIA長官はホワイトハウスから三ブロックはなれたレジスホテルで古い友人であり、支持者である元上院議員デイビッド・ボーレンと朝食を取っていた。統合参謀本部議長のヘンリー・シェルトン将軍はヨーロッパへ向う大西洋上の飛行機の中に居た。ミューラーFBIディレクターはペンシルバニア街のFBI本部事務所に居た。ノーマン・ミネタ運輸省長官は運輸省の自室に居た。ブッシュ大統領の車列は8時35分にフロリダ州サラソタのブーカー小学校に向けて出発していた。

(8時40分) 技術軍曹ジェレミー・パウエルはボストン管制塔からの電話を受け、それをビジラント・ガーディアン演習の地区司令であるダウン・デスキンス少尉に渡した。ボストンからのハイジャック報告を聞き、デスキンスはNEADSの司令官ロバート・マール大尉に報告した。マール大尉はフロリダのティンダール基地にあるNORAD司令センターにいるラリー・アーノルド少将にオーティス基地の戦闘機をスクランブルさせるよう要請した。アーノルド少将は「直ちにスクランブルせよ、許可は後から取る。」と指示した。ダニエル・ナッシュ少佐とティモシー・ダッフィー少尉はこの指示を受け、四 - 五分後には11便と175便を追跡するためにF-15で飛び立った。

(8時41分) 175便のパイロットは11便について地上管制塔へ次のように伝えた。「ボストン空港を出発するときに疑わしい交信を聞いた、誰かがマイクを入れて『全員席に着け』と言いそして切れた。」と。

(8時42分) 93便はニューヨークのニューワーク空港を滑走路混雑のため41分遅れで離陸した。

この頃、175便が規定の航路を逸れ始めた。トランスポンダーが切れ、交信も途切れた。その1分ほど後に175便の乗客であるバートン・ハンソンが彼の父に電話し「大変だ、やつらは女性乗務員を刺した。ハイジャックだと思う。」電話は途切れ途切れであったが、操縦室のドアを開けさせるためにナイフで武装したハイジャック犯が複数の客室乗務員を刺したと伝えた。彼は飛行機が墜落するまえに再度電話をして父に別れを告げた。

(8時43分) NORADは175便がハイジャックされたとの報告を受けた。

(8時45分) 11便が衝突する寸前に客室乗務員アミー・スイニーは何が見えるかと聞かれ、「水が見える、ビルが見える、ビルが見える」そして間をおいて静かに「おー神よ」と言っ

た。数秒後交信は途絶えた。同じ頃ベティ・オンは繰り返し、繰り返し、「私たちのために祈ってください。」と言って交信を終えた。

(8時46分) 11便はノースタワーに突っ込んだ。推定によれば、同機は約一万ガロンの燃料を積んで時速470マイル(750キロメートル)で突入した。(一万ガロンは210リットル入りの大型ドラム缶にして180本に相当する。)

大統領が11便ノースタワー突入報告を受けた時点では、ブッシュ大統領の車列はブーカー小学校へ向ってハイウェイ301を走っていた。

(8時46分) ワシントン発の77便が航路を逸れた。暫く北方向に向かい、ついで南に向きを変え、そして元来た方向へ向った。

その直後にNORAD、国防省軍司令部(NMCC)、カナダ司令センター、戦略司令室、戦術司令室、連邦緊急事態省の電話回線が接続され、航空脅威電話会議が始まった。チェイニー副大統領、主たる軍将校、航空局のリーダー、NORAD、ホワイトハウス、エアフォースワン(大統領専用機)は同じく電話が繋がれ、会議の内容を聞けるようになっていた。この会議は国防省に飛行機が突入しても続けられた。ペンタゴン内部のNMCは衝突の音も振動も感じないほど頑丈に作られていたからである。8時46分を数分過ぎた頃、CIA長官テネットはまだ元上院議員のデイビッド・ボーレンと食事をしていたが、世界貿易センターに航空機突入の報告を受けた。テネットは携帯電話を随員に渡してからボーレンに言った。「これはビン・ラディンの仕業だ。やつの指紋がそこら中に残っている。」

(8時50分) 77便との最後の交信が行なわれ、操縦士はより高い高度を取ってよいかと尋ねた。しかし、その後の手順上の指示に対し応答しなかった。

(八時五二分) オーティス基地を飛び立った二機のF-15は11便を追跡するよう指示されていたが、11便衝突の情報を得て175便追跡へと切り替えた。二機はマッハ1.2の速度でニューヨークへ向った。

(8時55分) ブッシュ大統領の車列がブーカー小学校に到着した。ブッシュ大統領は電話でライス補佐官と話をし、次にブーカー小学校のグエン・トセ・リゲル校長を呼んで、旅客機が世界貿易センターに突っ込んだことを告げ、とにかく行事を続けようと言った。

この頃、世界貿易センターのノースタワーでは、このビルは安全だから事務所へ戻るようにというアナウンスが流れていた。しかし、このアナウンスに関わらず三分の二の人々はサウスタワーへの次の攻撃が行なわれるまでの17分間に逃げ出していた。

(8時56分) 77便のトランスポンダー信号が消えた。その直前にケンタッキー北西上空で77便は進路を変え、ワシントンへ戻り始めた。管制官はレーダーで77便を探し始めたが、見つかるまでに数分間かかった。このため、同機は空中爆発したと言う噂が流れた。

(8時58分) 175便の乗客であるブライアン・スウィーニーは妻に電話したが繋がらず、「我々はハイジャックされた。状況は良くない。」という伝言を残した。さらに彼は母親に電話で機中での出来事を伝えた。

(9時2分54秒) 175便が世界貿易センターのサウスタワーに突入した。飛行機は110階建てのビルの78階から84階までに衝突し、この衝撃で約百人が殺されあるいは怪我をした。このビルではおよそ600人が死んだが、ノースタワーに比べれば死者の数はずっと少ない。オーティス基地から飛び立ったF-15戦闘機は、まだ71マイル(約113キロメートル)離れた場所を飛んでいた。F-15のパイロットダニエル・ナッシュ少佐は煙がマンハッタンで立ち昇るのをはっきりと確認した。パイロットは175便の危険について明確に知らされておらず、しかも二機の戦闘機はニューヨークではなくロングアイランドから150マイルほど離れた基地上空で旋回するよう指示されていた。ナッシュは「民間の管制官も、軍の管制官も我々に何をさせたらよいか分かっていなかった。」と語った。数分後彼らはマンハッタン上空で戦闘巡回飛行を行なうよう指示され、その後四時間飛行を続けた。ナッシュは、もし彼がニューヨークへ175便よりも早く到達していたところで、「自分は175便を撃墜することは出来なかっただろう、なぜなら撃墜命令は大統領にしか権限が無いからだ」と語った。

(9時3分-9時6分) ブッシュ大統領は教育政策促進に使う写真を取るために、サンドラ・ケイ・ダニエル先生が受け持つ二年生教室へ入った。そこには十六人の生徒を囲んで百五十人近い報道陣がいた。大統領は生徒を紹介され、何枚かの写真を撮った。先生は続いて読本学習を始めた。子供たちが本を机から出し、一斉に読もうとし始めたときに、スタッフ主任のアンドリュー・カードが入ってきて大統領に二機目が世界貿易センターへ突入したことを告げた。瞬間大統領は困惑の表情を表わしたが、報告に対し質問もせずに「山羊さん」の話に聞き入った。後に「自分はカメラを意識していた。今の出来事を自分で飲み込み、誰にもそれについて話さないようにした。自分は子供たちの中に座って話を聞きながら、自分は最高司令官であり、今米国が攻撃に晒されていると自覚していた。」と語った。この頃、ホワイトハウスではシークレットサービスがチェイニー副大統領とライス補佐官を地下の防空壕へ退避させていた。そこでチェイニー副大統領は77便がワシントンから50マイルに迫っていることを知らされた。

(9 時 16 分) 航空局はNORADに 93 便がハイジャックされたようだと告げた。それに対する戦闘機のスクランブルは行なわれなかった。

ブッシュ大統領は子供たちに「上手に本が読めるのを見せてもらって有難う。」と挨拶した。一人の生徒が大統領に質問し、大統領は手早く教育政策について説明を終えると教室を出た。

ブッシュは校長のグエン・トセ・リゲルに事情を説明し、空いた教室を貸して欲しいと頼み、そこでスタッフと打ち合わせを始めた。大統領は 9 時 29 分に放送する演説について打ち合わせ、続いてライス補佐官、チェイニー副大統領と電話した。

(9 時 17 分) 航空局はニューヨーク市の全ての飛行場を閉鎖した。

(9 時 24 分) 航空局は 77 便がハイジャックされワシントンを目指していることをNORADに通告した。ラムズフェルト国防長官とそのトップの補佐官たちは危険に気付かず、ペンタゴンにいた。

(9 時 25 分) 77 便の乗客であるバーバラ・オルソンは夫のテオドール・オルソンを電話で呼び出した。司法省の法務長官であるテオドールはその時、テレビで世界貿易センターのニュースを見ていた。バーバラは操縦士がハイジャックされたことをアナウンスしたと言った。テオドールは二機がハイジャックされ世界貿易センターへ突入したことを知らせた。彼女は操縦士に何を言えばよいかと尋ね、突然電話を切った。

(9 時 27 分) 93 便で少なくとも三人のハイジャック犯が立ち上がり、そのうち二人が操縦室へ入った。残った一人はマイクロフォンを取り上げ、それが管制官にも聞こえていることを気付かずに、彼らが爆弾を持っていること、空港へ戻りつつあることをアナウンスした。

チェイニー副大統領とライス補佐官はホワイトハウスの防空壕で飛行機がワシントンから 50 マイルの位置にあり、それは 77 便であるとの報告を受けた。さらにその位置が 30 マイルとなり、10 マイルとなり、ついにはレーダーから消えるまで、刻々と情報を受けた。

(9 時 27 分) トム・バーネットは妻のディーナに電話して言った。「今ユナイテッド航空 93 便でニューアークからサンフランシスコへ向っているが、飛行機はハイジャックされた。犯人達は一人の男をナイフで刺し、爆弾を持っている。FBIに連絡してくれ。」ディーナは緊急電話 911 (日本の 110 番に相当) を呼び出した。

(9時29分) ブッシュ大統領はブーカー小学校の200名の生徒と多くの先生及び報道陣に向けて短い演説をした。「本日我々は国にとっての悲劇を経験した。明らかにテロリストの攻撃と思われる二機の飛行機が、世界貿易センターに突入した。」

(9時30分) ラングレー基地にいた三機のF-16戦闘機が、77便に向けてスクランブルをかけた。

(9時33分-9時38分) レーダーのデータは77便がキャピトル・ベルトウェイを横切って国防省へ向ったことを示している。しかし時速400マイルで飛行していた77便は9時35分に国防省の上に達した時、高度が七千フィート(約二百メートル)であった。機は非常に難しい高速下降旋廻をしながら、円を描いて高度を落とした。

(9時36分) カリビア沖で補給物資を投下し、ミネソタへ帰ろうと計画してアンドリュース空軍基地を9時30分に飛び立ったC-130に対し空港管制塔から77便を迎撃するよう指令がだされた。管制塔が操縦士のスチーブ・オブライエン少尉に77便が見えるかと尋ねたとき、77便はC-130の目の前にいた。管制官はどんな機種だとたずねた。757か767だと答えると、その機を追尾しろと指示してきた。

(9時38分) ラムズフェルト国防長官はコックス下院議員とペンタゴンで会議中だった。迫りつつある77便には気付かずに、世界貿易センターのテレビ報道を見ていたが「間違いなく次の攻撃があるぞ」と言った。そしてその直後に77便が国防省のビルに激突した。消防士のアラン・ウオレスは国防省の前を歩いていた。彼が見上げると77便がまっすぐ彼に向かって飛んできた。高度は僅か七-八メートルで、着陸装置を出していなかった。彼は十メートルほど駆け出し、近くに駐車していたバンの下に飛び込んだ。飛行機は街灯の頭を千切って飛び込んできた。

この激突で地上に居た約125人が殺されあるいは行方不明となった。激突されたビルの部分は改装中であったために、普段なら2500人ぐらい居る所であったが、当日は800人しか居なかった。

(9時41分) 93便に乗っていたマリオン・バートンが友人に電話し、二人が殺され、93便は進路を変更したと告げた。その一分後にはマーク・ビンガムが母に電話し、ニューアークからサンフランシスコ行きに乗ったのだが、爆弾をもっているという三人組にハイジャックされた、と語った。

(9時43分) ブッシュ大統領の車列がサラソタ空港に到着し、大統領は飛行機が国防省のビルに突入したことを知らされた。大統領は直ちにエアフォースワンに乗り込んだ。

(9時45分) 93便の乗客トム・バーネットが妻のディーナに三度目の電話をした。彼女は飛行機が国防省ビルに突入したことを教えた。彼は他の人達と計画を練っていて「何かしなければならぬ。」と言った。また、トッド・ビーマは他の九人の乗客と五人の乗務員と共に後部席に集められ、爆弾を持っているという一人のハイジャック犯に見張られている、その他の二七人の乗客はファーストクラスでもう一人のハイジャック犯に見張られ、そこはカーテンで区切られている、と語った。ハイジャック犯の一人が操縦室に入り、乗客一人が死に二人の操縦士は殺されたようだ、とも語った。

同じ頃、ホワイトハウスでは一斉に避難が始まった。最初は静かに始まったが、まもなくシークレットサービスが皆に走れと叫んだ。

(9時47分) 93便の乗客ジェレミー・グリックはまだ妻リズと電話で話していた。彼は乗客たちがハイジャック犯を襲って機を取り戻すかどうかで投票し、取り戻す事に決めたと言った。

(9時48分) 議会ビルで避難が始まった。航空局が、ハイジャックされた飛行機はワシントンに向っている、と警告してから24分後だった。トム・ダッシュル上院議員は、首都警察が部屋に突然入ってきて「我々は攻撃下にあります。貴方を誘導しに来ました。」と言われたと後に語っている。

(9時49分) 129マイル(約206キロメートル)離れたラングレー基地から9時30分に飛び立った三機のF-16は国防省上空に達した。三機は熱追尾型のサイドワインダーミサイルを搭載し、民間機撃墜の許可を得ていた。

(9時50分) サンドラ・ブラッドショウは93便から夫に電話して言った。「貴方は何が起きているか聞いたでしょう？この機は三人のナイフを持ったハイジャック犯に乗っ取られたのよ。」そして乗客たちは犯人と戦うために、後部の厨房で熱湯を入れたポットを準備している、と語った。

(9時56分) ブッシュ大統領はフロリダのサラトガ空港からエアフォースワンで出発した。驚くべき事に、護衛戦闘機は付いていなかった。機が飛び立つと大統領はチェイニー副大統領に電話し、副大統領はハイジャック犯に制圧された飛行機は全て撃墜してよいと軍に承認を与えるべきだと進言した。「その通りだ」と大統領は言った。

(9時58分) 93便の乗客達がハイジャッカーを襲い始めた。「操縦室に入れ！」という叫び「ドアを押さえろ」というハイジャック犯の声が聞こえた。政府の発表によれば 93 便はそのおよそ8分後の10時3分に墜落した。

第三節 攻撃の結果

かくしてビン・ラディンが計画した攻撃は成し遂げられた。しかし、その最終的な結果が出るまでにはまだ時間が掛かった。

93 便が墜落する4分まえの9時59分にサウスタワーが崩壊した。ノースタワーからは火炎に追われた人々が次々と落ちてきた、なかには自ら飛び込んだ人もいると思われる。その数は五十人以上だったと推定された。サウスタワー崩壊によって生じた煙はマンハッタンの南側を覆った。10時28分にはノースタワーが崩壊した。世界貿易センターには110階建てのサウスおよびノースタワーのほかに五つのビルディングがあった。47階建ての第七ビルは二つのタワーと同じに、完全に崩壊した。第三、四、六ビルの大部分は崩れ落ち、第五ビルも甚大な被害を蒙った。^{vi}

四階建ての国防省ビルは十二柱から十八柱までの部分が崩れ落ちたが、世界貿易センターのような大きな倒壊ではなかった。衝突直後に撮られた写真に航空機らしき残骸が写っていなかったために、後からこの爆発は自動車に積まれた爆弾ではなかったかとか、小型飛行機による被害ではなかったのか、などの疑問が起こった。^{vii}

ペンシルバニアで墜落した93便は機体の破片が墜落地点から6マイル(9.6キロメートル)も離れたところから見付た為に、F-16戦闘機が撃墜したのではないかという疑いもたれたが、公式には戦闘機による撃墜はなかったとされている。

この攻撃による直接的な人的被害は以下の通りである。

- | | |
|------------------|-------------------------|
| ● アメリカン航空 11 便 | 乗客 81 名、乗務員 9 名、操縦士 2 名 |
| ● ユナイテッド航空 175 便 | 乗客 56 名、乗務員 7 名、操縦士 2 名 |
| ● アメリカン航空 77 便 | 乗客 58 名、乗務員 3 名、操縦士 2 名 |
| ● ユナイテッド航空 93 便 | 乗客 37 名、乗務員 5 名、操縦士 2 名 |
| ● 世界貿易センター | 死者 2749 名 |
| ● 国防省 | 確認済み死傷者百 125 名 |

この攻撃による直接被害の総額は三百億ドルに近いと推定される。さらに、航空業界ではテロと不況が重なり大幅に航空旅客の数が減少した。大規模ハブ空港間での旅客数の減少は2002年12月時点で以下の通りである。^{viii}

- | | |
|-----------------|-------|
| ● ボストン・ローガン国際空港 | 23%減少 |
|-----------------|-------|

- ロサンゼルス国際空港 20%減少
- ニューアーク国際空港 20%減少
- ワシントン・ダレス国際空港 20%減少
- マイアミ国際空港 20%減少

中小規模のハブ空港間交通量は 36%落ち込んだ。非ハブ空港では、例えばニューメキシコ州サンタフェ空港で 62%落ちた。

9/11 攻撃は米国政府、ヨーロッパ、は言うに及ばず全世界に強烈な衝撃を与えた。NATO 加盟国は直ちに、北大西洋条約第 5 条を適用し、加盟国一カ国への攻撃は全加盟国への攻撃とみなす事にした。だが米国は同盟国に考慮することなく、単独で報復への道を歩み始めることになる。その唯一の同伴者は英国であった。

ⁱ Four Hijackers Stayed at CT Motel, The Associate Press, March 6,2002
<http://www.cooperativeresearch.org/timeline/2002/ap030602.html>

ⁱⁱ What went wrong. The inside story of the missed signals and intelligence failures that raises a chilling question: did September 11 have to happen?, by Michael Hirsh and Michael ISilkoff, News Week, May 27/02
<http://foi.missouri.edu/terrorismfoi/whatwentwrong.html>

ⁱⁱⁱ The counter terrorist-John O'Neill was an FBI agent with an obsession the growing threat of Al Qaeda, by Lawrence Wright
http://www.newyorker.com/faCTContent/?020114fa_FACT1

^{iv} October 17, 2002 Committee Hearing:
<Http://www.cooperativeresearch.org/timeline/2002/congressionalinquiry101702.html>

^v The Complete 9/11 Timeline
http://www.cooperativeresearch.org/project.jsp?project=911_project

^{vi} Special Report: September 11, 2001 Terrorist Attacks, By: Chris Kilroy
<http://www.airdisaster.com/special/special-0911.shtml>

^{vii} Pentagon -- Exterior Impact Damage ,
<http://anderson.ath.cx:8000/911/pen06.html>

^{viii} New Report Documents Decline in Air Services Since 9/11,
<http://www.reconnectingamerica.org/html/news/pressrelease.htm>